

管理室を訪問し、技術支援しています。

2005 年末までの高知県地域がん登録票では、登録票作成の際の負担を軽減するために、「組織診断名」と「進展度」が登録項目に含まれていませんでした。2006 年に、これら 2 項目を含む登録票へ改訂され、現在は標準登録項目を満たす登録票が使われています。

高知県の地域がん登録データは、県医師会が委託機関だった時に独自開発したシステムに登録されてきましたが、入力時のエラーチェック機能が弱く、また、国際腫瘍学分類第 3 版に完全対応していないため、全国がん罹患モニタリング集計のためのがん罹患データの作成に支障が生じていました。幸い、高知県の 2010 年度予算に地域がん登録標準データベースシステム導入経費が計上され、2010 年 12 月に地域がん登録事務局に標準データベースシステムが導入されました。過去の登録データを標準データベースシステムへ移行することはせず、診断年が 2006 年までのがん患者の管理には県医師会から引き継いだ独自のシステムを、診断年が 2007 年以後のがん患者の管理には標準データベースシステムを用いています。

登録漏れ患者の把握と登録患者の予後調査のために県から提供を受ける死亡情報の範囲は、2006 年までの死亡情報についてはがん死亡票だけに限られていましたが、2007 年以後は全死亡票の提供を受けられるようになり、死因ががん以外の登録患者の死亡の把握漏れを少なくできるようになりました。

現在のところ、出張採録と住民票照会による予後調査を行う計画はありません。

3. 課題

1) 登録精度 高知県地域がん登録は、歴史は長いものの、全国罹患率推計に採用される登録精度を満たしたことは一度もなく、死亡票のみの割合が 30%前後に、罹患/死亡比が 1.2 前後に留まってきました。地域がん診療連携拠点病院（現在は 3 施設、2011 年度に 4 施設になる見込み）の院内がん登録から地域がん登録への漏れのない届出と、拠点病院以外の主要施設に対する死亡情報に基づく遡り調査とを徹底し、地域がん登録の精度を高めることに努めています。

2) 登録資料の活用 県医師会が委託機関だった時に

独自に開発したデータベースには、全部位と主要部位について年齢調整罹患率と 5 年相対生存率を計測するための機能が備わっていました。県医師会が委託機関だった時にも、医療機関からの要請に応じて、これらの指標を計測して報告してきました。しかし定期的な報告は、高知大学医学部附属病院のホームページ http://www.kochi-ms.ac.jp/~him22059/ca/can_index.html で公表している「高知県における主要部位別罹患・死亡状況・受療状況・がん登録精度」と「罹患数 年齢階級主要部位別集計（全体、男、女）」という集計表に留まってきました。地域がん登録標準データベースシステムからの出力に基づく報告書のテンプレートを参考に、2011 年度からの報告年報の定期刊行を目指しています。

4. 最後に

長い歴史を持つことしかとりえがなかった高知県地域がん登録を、一日も早く、地域のがん医療とがん予防活動が、PDCA サイクルに則って推進されることに貢献できる登録へ進化させなければなりません。登録実務者の増員と標準データベースシステムの導入を実現できた今が最後のチャンスです。関係者は背水の陣で、登録精度と登録の質の向上、そして登録資料の活用に向けた取り組みを進めています。

地域がん登録全国協議会紹介ブース出展 報告（第 69 回日本公衆衛生学会学術総会）

成澤 麻子 尾崎 恭子

特定非営利活動法人地域がん登録全国協議会
事務局

平成 22 年度 10 月 27 日（水）～29 日（金）に東京・有楽町、東京国際フォーラムで開催された第 69 回日本公衆衛生学会学術総会に協議会の紹介ブースを出展しました。

国際フォーラムは東京駅、有楽町駅いずれにも近いことから例年以上の参加者が予想され、どのように地域がん登録事業や当協議会活動を宣伝するか試行錯誤しながらの出展となりました。当日は、今までの展示形式にとらわれず、地域がん登録に関心のない方も

自然に展示を見ていただけるような工夫を施しました。地域がん登録事業の概要説明や協議会活動の紹介等のポスター展示、協議会の刊行物（Newsletter、Monograph等）の閲覧展示のほか、地域がん登録が役に立った例を表形式にまとめ、ブースに掲出しました。また、今年度共催開催した IACR2010 と第 19 回学術集会の様子を写真で紹介しました。

3 日間で、1500 部ほどの地域がん登録に関する一般向け紹介パンフレットを来場者に配布することができましたし、ブースには、がん登録をご存じない方から実際に携わっている医療関係者の方まで様々な方にお越しいただきました。熱心にご質問いただくこともあり、サポーターとしてお手伝いいただいた事務局主事の松田先生、丸亀先生をはじめ、監事の大木先生、理事の藤田先生、田中先生のご助力を得ながら、事務局員 2 名、懸命に地域がん登録の重要性をお伝えしました。また、地域がん登録についてもっと広く大勢の方に理解していただく必要性を痛感し、そのためにも、今後の協議会活動のあり方を考えさせられる良い機会となりました。

来年度の日本公衆衛生学会学術総会は、秋田県での開催が予定されています。来年度も、新しい情報を提供しながら、より多くの方々に地域がん登録への理解を深めていただけるよう、「協議会活動をさらに充実させたい！」と気持ちを新たにした 3 日間となりました。



出展ブースの様子

NPO 法人地域がん登録全国協議会 平成 22 年度臨時総会報告

成澤 麻子 尾崎 恭子

特定非営利活動法人地域がん登録全国協議会
事務局

特定非営利活動法人地域がん登録全国協議会平成 22 年度臨時総会を、第 19 回学術集会に併せて 2010 年 10 月 15 日（金）神奈川県横浜市赤レンガ倉庫 1 号館にて開催いたしました。当日は、平成 22 年度地域がん登録実務者功労者表彰式も臨時総会前に開催し、全国の登録室にて長年にわたり地域がん登録事業にご精励くださった実務担当者 13 名に、その功績をたたえ理事長より感謝状と記念品を贈呈しました。平成 13 年度から協議会の人材育成事業の一環として実施してきました地域がん登録実務担当功労者表彰制度ですが、従来の表彰制度としては、本年度が最後となり、今後の表彰制度については見直しを図り継続していく予定です。

以下、平成 22 年度実務功労者表彰者一覧、臨時総会決議事項をご報告いたします。

平成 22 年度 実務担当功労者表彰 受賞者一覧

宮城県	佐藤 美登里 様	広島県	早川 直博 様
宮城県	長嶋 理栄 様	広島県	畦内 美登里 様
茨城県	植田 要子 様	広島市	谷田 安芸 様
群馬県	松永 弘子 様	広島市	西尾 正二 様
千葉県	清水 多美子 様	長崎県	荒木 真美子 様
大阪府	三田 圭良子 様	長崎県	国分 麻子 様
大阪府	松田 里美 様		以上 13 名

受賞者の皆さま、おめでとうございます

平成 22 年度 臨時総会

正会員 37 名中 出席者 34 名 欠席者 3 名

出席者の内、代理出席者へ表決委任 14 名、理事長を代理人として表決委任 8 名 合計 34 名

第一号 議事録署名 2 名の選任

議案 西野善一氏、大木いづみ氏を選任（承認）

第二号 平成 22 年度の事業計画の変更の件、議決（承認）

議案 - がん登録に関する調査及び研究事業の実施月を 4 月と 2 月に変更

- 手引、冊子、実務者マニュアル等の発刊事業の内容を、6 月から 3 月資料作成に変更

- 以上 2 件の変更に伴う支出増額の場合は理事会承認を経て予備費より執行